

「保健体育科」学習指導案

日 時 令和3年10月5日(木) 13:40~14:20
場 所 体育館
生 徒 男子2名、女子3名
指導者 及川 健太

1 題材名(単元名)
サッカー(球技)

2 題材(単元)設定の理由

本学習グループは知的代替小Ⅱ・Ⅲ段階の教育課程を履修する生徒5名である。本単元では保健体育科のボールを使った運動やゲームについての単元を取り扱う。

対象生徒5名は年間を通して、簡単なルールやきまりを守って運動したり、道具の使い方を考えて活動したりすることをねらっている。5名とも学習に取り組む姿勢は意欲的で、体を動かすことが好きな様子が日常生活からも見られる。今回の単元ではサッカーの基本的なルールやボールを使った運動、味方や相手を意識しての簡易的なミニゲームを取り扱う。サッカーのルールやきまりを簡略化し、分かりやすくすることで、生徒が自分で考えて活動に取り組めるようになってもらいたいと考える。また、道具を使っての運動では、自分の障害特性を踏まえ、生徒が関心をもって安心、安全に学習活動に取り組めるようになってもらいたいと考える。日常生活においても、自分にあった道具を駆使して、生活の幅を広げたり、他者とのコミュニケーション手段として活用したりして、生活を豊かにしてほしいと考える。

3 保健体育科における生徒の実態

生徒	保健体育科における実態	学習全般の学びの様子、行動特徴	学びの実態
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電動車いすで自走ができる。 ・ 右手の緊張が強く、操作は基本的に左手を使って活動する。 ・ きまりを守って活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何事にも挑戦し、諦めずに最後までやり遂げようとする事ができる。 ・ 友達に声を掛け、積極的にコミュニケーションをとりながら活動を行うことができる。 	知小2段階
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いすで自走ができる。 ・ 四つ這いや手すりにつかまり立ちをすることができる。 ・ 歩行器を使って歩くことができる。 ・ 教師の動きを模倣することができる。 ・ きまりを守って活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発声は聞き取りづらいが、教師の指示を理解し、行動することができる。 ・ ペチャラを使って自分の意思を相手に伝えることができる。 	知小2段階
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電動車いすで自走ができる。 ・ 短い距離であれば一人で歩くことができる。 ・ ルールやきまりを守って活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発声は聞き取りづらいが、教師の指示を理解し行動することができる。 ・ 疲れやすく、集中力が続かないこともあるが、何事にも意欲的に取り組むことができる。 	知小3段階

D	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすで自走ができる。 ・歩行器を使って歩くことができる。 ・手すりにつかまり立ちをしたり、階段の昇降をしたりすることができる。 ・ルールやきまりを守って活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発声は聞き取りづらいが、教師の指示を理解し行動することができる。 ・負けず嫌いで、何事にも粘り強く、意欲的に取り組むことができる。 	知小3段階
E	<ul style="list-style-type: none"> ・電動車いすで自走ができる。 ・姿勢が崩れやすいが、教師が言葉掛けをすることで自分から意識して正しい姿勢に戻すことができる。 ・簡単なルールやきまりを守り、自分なりに考えて活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉を理解し、行動することができる。 ・リーダーシップをとり、友達に声を掛けたり、まとめたりすることができる。 	知小3段階

4 題材（単元）の目標及び評価規準

単元（題材）のねらい		
段階 観点	知小・体育・2段階	知小・体育・3段階
知識及び技能	教師の支援を受けながら、楽しくサッカーボールを使った基本的な運動(ドリブルやシュート)をすることができる。	ボールを使った基本的な運動やミニゲームに楽しさを感じ、ドリブルやシュートなど基本的な動き方を身につけることができる。
思考力、判断力、表現力	サッカーボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現することができる。	サッカーボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気づいたことなどを他者に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動やゲームをすることができる。	きまりを守り、自分から友達と仲良く楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気をつけたりしようとする事ができる。
単元（題材）の評価規準		
段階 観点	知小・体育・2段階	知小・体育・3段階
知識及び技能	教師の支援を受けながら、楽しくサッカーボールを使った基本的な運動(ドリブルやシュート)をしている。	ボールを使った基本的な運動やミニゲームに楽しさを感じ、ドリブルやシュートなど基本的な動き方を身につけている。
思考力、判断力、表現力	サッカーボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現している。	サッカーボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気づいたことなどを他者に伝えている。
学びに向かう力、人間性等	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動やゲームをしている。	きまりを守り、自分から友達と仲良く楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気をつけたりしようとしている。

5 指導計画

○：指導の重点及び評価の観点

	日時	おもな指導内容	知技	思判表	学び
1	8/26(木)	・オリエンテーション…サッカーのルールや単元の学習内容を知る。 →・サッカーボールに触れる。		○	
2	8/26(木)	・パス練習…相手にボールを蹴ったり、渡したりする。 →・1対1でのパス ・5人でジグザグパス	○		
3	9/9(木)	・ドリブル練習…ボールをコントロールしながら運ぶ。 →・直線のドリブル練習 ・1対1でドリブルからのパス練習		○	
4	9/16(木)	・シュート練習…チームで協力し勝敗を競う。 →ミニゲーム (PK 戦)	○		
5	10/5(火) 本時	・オフェンス、ディフェンス練習…攻撃、防御の役割を理解する。 →オフェンスとディフェンスに分かれてパスやドリブル	○		○

6 本授業における手立て、配慮事項

授業作りの5つの視点	内容
物理的環境支援	・パスを出す相手、ドリブルのスタート位置など視覚的にわかるようにコーンを設置する。 ・生徒の実態に応じて補助具等の教材を使用する。
補助的手段	・生徒の実態に応じて、ウォーカーを活用する。
人的支援	・必要に応じて言葉掛けや身体的支援を行う。 ・合図を出す教員は注目しやすい場所に立つ。 ・過度な支援は行わず、生徒の自発的な動きを引き出すようにする。
学習機会	・見通しが持てるように、順番、回数、道具等を視覚的に提示する。 ・オフェンスとディフェンスに分かれてゲーム性を持たせることで、分かりやすさと意欲につなげる。
多様な評価	・お互いに活動を見合ったり、ミニゲームをして勝敗を競ったりする。

7 生徒の本時の目標

	目標 (○は重点)	観 点		
		知技	思判表	学び
A	ディフェンスの動きを意識しながら、狙った場所にボールを運ぶことができる。	○		
	ルールを守りながら、自分から楽しくゲームに取り組むことができる。			○
B	ディフェンスの位置を意識しながら、狙った場所にボールを運ぶことができる。	○		
	ルールを守りながら、自分から楽しくゲームに取り組むことができる			○
C	オフェンスとディフェンスの役割を理解し、ボールを奪ったり味方に運ぶことができる。	○		
	ルールを守りながら、楽しくゲームに取り組むことができる。			○
D	オフェンスとディフェンスの役割を理解し、ボールを奪ったり味方に運ぶことができる。	○		
	ルールを守りながら、楽しくゲームに取り組むことができる			○

E	オフenseとディフェンスの役割を理解し、ボールを奪ったり味方に運ぶことができる。	○	
	ルールを守りながら、楽しくゲームに取り組むことができる。		○

8 授業に際し準備するもの

サッカーボール、パイロン×4、ビブス×10、補助具、音源（ラジオ体操・BGM）

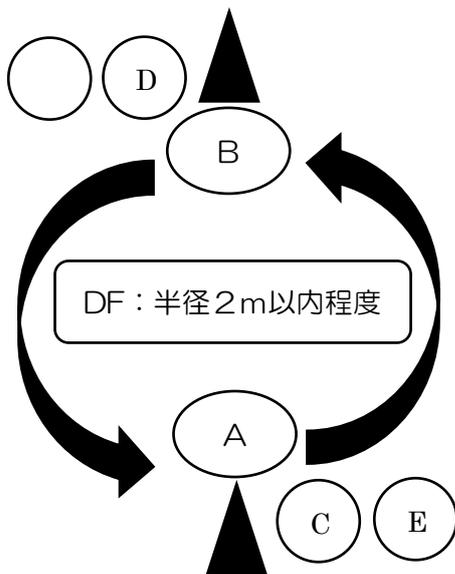
補助具	
オフense時（バーは前側）	ディフェンス時（バーは後ろ側）
	
<p>できるだけ自分の力で、生徒がボールを扱いやすくするために作成した。 両サイドのバーは開閉ができるようになっており、オフense時は写真のようにバーを開き、ディフェンス時はバーを後ろ向きにして使用する。</p>	

9 本時の展開

時刻	学習内容・活動	支援の視点と手立て
13:40	1 はじめのあいさつ ・隣の人と間隔をとり、教師の号令に合わせてあいさつをする。	・教師に注目するように促す。
13:42	2 本時の学習内容の確認 ①ラジオ体操 ②オフense・ディフェンス練習 ③振り返り	・生徒に学習の見通しを持たせるために、視覚的に分かりやすいように提示する。 ・ビブスを着用することでチームを意識させる。
13:47	3 ラジオ体操 ・教師の手本を見ながら、ラジオ体操を行う。	・教師は生徒から見える位置で演示をする。 ・生徒の実態に応じて言葉掛けや身体的支援を行う。
13:50	4 オフense・ディフェンス練習 ①本時のねらいを確認する	・学習のはじめに、本時のねらいを提示することで、生徒の意識づけを図る。

14 : 20	<p style="text-align: center;">本時のねらい</p> <p style="text-align: center;">オフenseとディフェンスの役割を理解して、相手にパスをする。</p> <p>②パスとドリブルの練習</p> <p>オフenseとディフェンスに分かれてパスやドリブル練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフense…ディフェンスにボールを奪われないように相手にパスをする。 ・ディフェンス…決められた範囲内でオフenseからボールを奪う。 <p>5 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表の生徒が活動を振り返っての感想や反省点などを発表する。 <p>6 おわりのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣の人と間隔をとり、教師の号令に合わせてあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は他の学習グループと対抗する形式で行う ・ボールを蹴ってパスができる場合はその場でパスをする。蹴ることが難しい場合は近くまでドリブルをしてからパスをする。 ・自走が難しい生徒は教師と一緒にボールを運ぶ。 ・オフenseの、パスとドリブルのコースを一本化したり、守備の範囲を決めることで、生徒がより少ない支援でも自分で判断して動くことができる場面を増やすようにする。 ・生徒の実態に応じて歩行器を使用する。 ・必要に応じて言葉掛けや、身体的支援を行う。 <p>・本時の目標についての感想を中心に自己評価できるように促す。</p> <p>・教師に注目するように促す。</p>
---------	--	---

10 学習配置図



1 1 本時の評価

(1) 個別目標の本時の評価

	目標（○は重点）	観 点			評価
		知技	思判表	学び	
A	ディフェンスの動きを意識しながら、狙った場所にボールを運ぶことができたか。	○			
	ルールを守りながら、自分から楽しくゲームに取り組むことができたか。			○	
B	ディフェンスの位置を意識しながら、狙った場所にボールを運ぶことができたか。	○			
	ルールを守りながら、自分から楽しくゲームに取り組むことができたか。			○	
C	オフェンスとディフェンスの役割を理解し、ボールを奪ったり味方に運ぶことができたか。	○			
	ルールを守りながら、楽しくゲームに取り組むことができたか。			○	
D	オフェンスとディフェンスの役割を理解し、ボールを奪ったり味方に運ぶことができたか。	○			
	ルールを守りながら、楽しくゲームに取り組むことができたか。			○	
E	オフェンスとディフェンスの役割を理解し、ボールを奪ったり味方に運ぶことができたか。	○			
	ルールを守りながら、楽しくゲームに取り組むことができたか。			○	

(2) 授業評価

- 題材（単元）目標、本時の目標達成に向けた学習内容であったか。
- 授業の流れや指導形態は適切であったか。
- 学習内容と活動量は適切であったか。
- 教材、教具は効果的だったか。
- 指導や支援の方法は適切だったか。

1 2 授業改善の視点

本授業のオーダー	採用した改善策（3つまで）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒がより主体的に取り組み、楽しめるような球技の授業実践や、よりゲーム性を持たせるための工夫や配慮、方法があれば伺いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・